

第 4 回

熊本県議会

高速交通及び新幹線活用対策特別委員会会議記録

平成23年12月12日

開 会 中

場所 第 3 委 員 会 室

第4回 熊本県議会高速交通及び新幹線活用対策特別委員会会議記録

平成23年12月12日（月曜日）

午前10時2分開議

午前11時25分閉会

本日の会議に付した事件

- 1 高速交通体系に関する件
- 2 熊本都市圏交通に関する件
- 3 九州新幹線鹿児島ルートを活用した地域振興に関する件
- 4 付託調査事件の閉会中の継続審査について
- 5 その他

出席委員（16人）

委員長 松田三郎
副委員長 小早川宗弘
委員 山本秀久
委員 村上寅美
委員 小杉直
委員 岩中伸司
委員 堤泰宏
委員 氷室雄一郎
委員 鎌田聡
委員 守田憲史
委員 西聖一
委員 早田順一
委員 高野洋介
委員 高木健次
委員 増永慎一郎
委員 九谷高弘

欠席議員（なし）

委員外議員（なし）

説明のため出席した者

企画振興部

部長 坂本基

総括審議員

兼交通政策・情報局長 小林豊
地域振興課長 佐藤伸之
地域振興課政策監
兼新幹線元年戦略推進室長 本坂道
交通対策課長 中川誠
商工観光労働部
観光課長 宮尾千加子
くまもとブランド
推進課長 坂本孝広
土木部

部長 戸塚誠司

道路整備課長 増田厚

道路保全課長 亀田俊二

都市計画課長 内田一成

審議員兼

鉄道高架推進室長 上野晋也

警察本部

交通部長 中野洋信

交通規制課長 高野利文

事務局職員出席者

政務調査課課長補佐 小林昌樹

議事課課長補佐 平田裕彦

午前10時2分開会

○松田三郎委員長 ただいまから、第4回高速交通及び新幹線活用対策特別委員会を開催いたします。

本日の委員会に3名の傍聴申し込みがありましたので、これを許可したいと思います。

まずは、執行部を代表して、坂本企画振興部長からあいさつ及び概要説明をお願いいたします。

○坂本企画振興部長 委員会開会に当たりま

して、執行部を代表して、本委員会の付託案件の概要について御説明申し上げます。

松田委員長、小早川副委員長を初め委員の皆様方におかれましては、10月下旬の管外視察につきまして大変お世話になりました。現地で得られました情報につきましては、今後の事業推進に役立ててまいります。

それでは、付託案件の概要について御説明申し上げます。

第1に、高速交通体系に関する件でございます。

まず、高規格幹線道路等の道路ネットワークの整備につきましては、厳しい道路予算の状況ではありますが、早期完成が図られるよう要望活動などに積極的に取り組んでいるところであります。

次に、航空路線の利用促進につきまして、国内線は、東日本大震災の影響等により利用が低迷するなど厳しい状況が続きましたが、夏以降は利用者数が前年並みまで回復しつつあります。

また、ソウル線につきましては、ソウル市内での大型ビジョンによる熊本の安全性のPRや利用促進に取り組んだことなどもあり、震災直後に比べると利用状況は回復しつつありますが、秋以降、円高の影響もあって韓国からのインバウンドが伸び悩んでおります。

さらに、現在、中国南方航空と路線開設に向けて交渉を続けております。引き続き阿蘇くまもと空港の路線振興に取り組んでまいります。

第2に、熊本都市圏交通に関する件でございます。

阿蘇くまもと空港への公共交通によるアクセスの充実を図るため、JR肥後大津駅と空港間を結ぶ空港ライナーを10月1日から試験運行し、現時点で1日当たり100名を超える利用状況にあります。今後とも交通ネットワークの強化に取り組んでまいります。

第3に、九州新幹線鹿児島ルートを活用し

た地域振興に関する件でございます。

まず、九州新幹線の博多－熊本間の利用者数は、7月以降前年同期と比べまして4割以上の伸びを続けており、順調に推移しております。

次に、九州新幹線を活用した熊本づくりににつきましては、熊本の魅力を多くの方々に体感し楽しんでいただけるよう、新幹線元年事業や「くまもとサプライズ」を県内各地で展開しております。これまで「くまモンまつり」等を、県外からの参加者を含む多くの方々に参加いただきながら開催するとともに、各地域の人々や日々の暮らしをつづつた「くまもとサプライズフィルム」の上映を県内各地で行うなど、熊本の多彩な魅力を県内外に発信しているところであります。

次に、九州新幹線を活用した観光振興等についてですが、まずKANSAI戦略につきまして、「くまモン」の人気を生かし、今年度は営業部長として県産品のPRを目的に、関西地域の食品事業等への営業活動を進めているところであります。

次に、観光キャンペーンにつきましては、現在、宮崎県、鹿児島県、JRグループとの連携による「熊本・宮崎・鹿児島デスティネーションキャンペーン『のんびり過ごす極情の旅』」を展開しているところであります。全国に向け熊本の魅力を引き続き発信してまいります。

以上、各案件につきまして概要を御説明いたしました。詳しくは各課長から説明申し上げますので、御審議のほど何とぞよろしくお願いいたします。

○松田三郎委員長 それでは、議題(1)執行部から事業概要の説明を受け、その後質疑を受けたいと思います。

説明に当たっては、可能な限り簡潔にお願いいたします。

説明は着座のまま結構でございますが、

最初だけ、どこから説明なさっているかわかるように、挙手か1回立っていただければと思います。

それでは、増田道路整備課長から順次説明をお願いいたします。

○増田道路整備課長 よろしく申し上げます。

委員会資料の変更点について説明を申し上げます。

道路整備課が担当しております高速交通体系に関する件、高規格幹線道路等の整備について、前回から3点変更点がございますので御説明します。

資料の1ページをお願いします。

最下段の平成23年11月5日現在の供用延長について、全国の数値を9,915キロメートルと時点修正しております。

次に、9ページをお願いします。

地域高規格道路の整備に関して、熊本環状道路についてですが、中ほどの現状の上から4つ目の丸、国道3号植木バイパスにおいて11月に地元説明に着手しました。

次に、次ページをお開きください。11ページをお願いします。

建設促進活動についてですが、九州中央自動車建設促進協議会及び南九州西回り自動車道建設促進協議会、それぞれ10月の26日から27日、11月16日から17日に提言活動を行いました。

道路整備課は以上でございます。

○中川交通政策課長 交通政策課でございます。

資料の15ページをお願いいたします。

前回からの変更箇所は、主にデータの更新が中心でございますので、表形式による記載部分を中心に説明させていただきます。

参考-4をごらんください。国内線の旅客数の状況でございます。前回までは8月まで

の利用状況でございましたが、今回10月までの利用状況を記載しております。

まず、平成23年度の利用率でございます。一番下の合計欄をごらんになられてください。61.3%ということになっておりますが、これは前回8月時点での59.2%を2.1ポイント改善されております。

一番右端の一番下の欄をごらんになられてください。旅客数の増減率でございます。前年比98.1%ということで、前回8月までの数字と比べまして1.5ポイントの改善になっております。部長説明でもありましたように、国内線につきましてはほぼ前年並みの利用に近づいている状況でございます。

次のページをお開きください。16ページの参考-5でございます。

震災後の旅客数の状況で、先ほどの国内線のうち羽田線と大阪線につきましては、月ごとの利用率、利用実績について記載しております。右端に9月分と10月分のデータを記載しております。

表の中の国内線のうち羽田線でございます。一番右端、平成23年度10月のデータを記載しております。利用率につきましては70.5%、9月が72.4%。大阪線につきましては、9月が61.5%、10月が63.4%ということで順調に推移しております。

次に、19ページをお開きください。

参考-3にソウル線の利用状況でございます。これも月ごとのデータを記載しております。右端に9月のデータ、10月のデータを記載しております。利用率につきましては、9月が64.1%、10月が61.5%ということで60%以上確保しておりますが、利用者数につきましては、円高等の影響もあり、外国人の利用者の伸び悩み等があり、前年度を割り込んでいる状況が続いております。

次に、21ページをお願いいたします。

国際線の今後の取り組みでございます。

ソウル線につきましては、ただいま利用状

況が低迷しておることについてお話ししましたように、これからも数字を伸ばす必要がございます。特に、県内の教育旅行等を中心に働きかけを行うとともに、韓国人利用者対策、特にインバウンド対策に取り組むことで、週5便化の実現を目指してまいります。

中段、その他に、台湾線と中国線について記載しております。

台湾線につきましては、先週の水曜日、12月7日に、県立大津高校の修学旅行が実現しております。学生数314名、引率約30名、合計約350名の修学旅行が実現しております。

中国線につきましては、中国南方航空に対し、引き続き新規路線の開設ができるだけ早期に実現しますよう、積極的に取り組んでまいります。

23ページでございます。

航空物流についてでございます。

参考-1ということで、中段に空港の貨物取扱状況について記載しております。9月と10月のデータを追加しております。表の一番下に、22年度の前年同月のデータを記載しておりますが、9月が82.5%、10月が81.4%ということで、データの前年度までの迫り着きがなかなかできていない状況でございます。

航空路線の利用促進については以上でございます。

続きまして、都市圏交通に関する件でございます。

少し飛ばしまして、34ページをお開きください。

阿蘇くまもと空港へのアクセスの改善ということで、空港ライナーの試験運行についてでございます。冒頭の部長説明にございましたように、利用状況につきましては、10月から11月の2カ月間で6,626人、1日当たりにつきましては、10月が99人、11月が118人でございます。11月につきましては、1日当たり130人以上を超えた日にちが12日間になっております。

交通政策課については以上でございます。

○内田都市計画課長 都市計画課でございます。よろしくお願いたします。

それでは、資料の38ページをお願いいたします。

パークアンドライドにつきまして御説明いたします。

上段の表は、今年11月末現在の実施状況を記載しております。

次に、利用促進に向けた取り組みについて御説明いたします。

次の39ページをお願いいたします。

エコ通勤環境配慮に取り組んでいる特定規模事業者8事業所等に対して、パークアンドライドの周知・広報及び利用促進の働きかけを行いました。

また、ゆめタウン光の森など運用中の駐車場事業者に対し、業者から要望のあった駐車場の改善について、取り組み状況の把握やさらなる改善について働きかけを行いました。

普及促進に向けた取り組みといたしまして、JR宇土駅駐車場は、来年1月から運用開始を予定しております。

以上で説明を終わります。

○佐藤地域振興課長 地域振興課でございます。

44ページ下段の方をお願いいたします。

国の新熊本合同庁舎B棟についてでございます。新熊本合同庁舎B棟につきましては、本年度から凍結されていた整備が再開されたところでございます。しかしながら、去る10月5日に開催されました衆議院東日本復興特別委員会で野田総理大臣は、国の合同庁舎の建設につきましてつくるかつくらないかを含めて精査していると、こういう考えを表明されました。

これに対しまして、10月7日、早速に県議会から国に対し、新熊本合同庁舎B棟の着実

な整備推進を求める意見書を提出いただいたところでございます。また、10月19日には、知事、市長それから県議会議長、熊本市議会議長、経済団体等から、国に対して要望活動を実施したところでございます。

今後とも、国の予算措置状況について留意をいたしまして、引き続き新熊本合同庁舎B棟が着実に整備されるよう努めていきたいと考えております。

以上でございます。

○中川交通政策課長 交通政策課でございます。

48ページをお願いいたします。

九州新幹線鹿児島ルートを活用した地域振興に関する件でございます。

次が、九州新幹線の利用状況でございます。今後、来年3月のダイヤ改正に向けまして、停車本数の増加、修学旅行に対する座席の確保等につきまして、先月中旬、九州各県との合同要望、及び県内沿線市との合同要望を行ったところでございます。

次、九州新幹線の利用実績、次の表でございます。博多ー熊本間につきましては、一番右端、10月でございますが、1日の平均2万6,800人ということでございます。

次、49ページの上段でございます。各月ごとの前年比でございます。博多ー熊本間、9月につきましては141%、10月には149%ということで、順調に推移している状況でございます。

下段、各駅の乗降客数でございます。新玉名駅、10月につきましては1,000人、熊本駅1万4,350人、新八代駅2,000人、新水俣駅1,050人ということでございます。

交通政策課につきましては以上でございます。

○本坂新幹線元年戦略推進室長 新幹線元年戦略推進室でございます。よろしくお願ひい

たします。

50ページからが九州新幹線を活用した熊本づくりでございますが、55ページをお開きいただきしたいと思います。

まず、秋の開業記念イベントの概要でございます。3月の九州新幹線のイベントの多くは、大震災の影響等により中止・自粛されましたが、熊本を盛り上げる再スタートをしまして、くまもとサプライズキャラクター「くまモン」を前面に押し出したイベント等を開催しました。1番から3番まで、3つのイベントを開催いたしまして、予想を超える入場者の方にお集まりいただきました。秋の盛り上げに対しまして一定の貢献ができたものと考えております。

それから、その下の黒い星印ですが、「ゆるキャラグランプリ」がございまして、全国のゆるキャラ約350体がエントリーしまして、インターネットで投票を行います「ゆるキャラグランプリ2011」におきまして、「くまモン」が28万7,315票を集めましてグランプリを受賞いたしました。投票いただきました県民初め全国の「くまモン」ファンの皆様にお礼を申し上げたいと思います。これからも熊本の認知度向上のため、活動を続けてまいりたいというふうに考えております。

続きまして、56ページをお願いいたします。

⑤番でございます。真ん中若干下でございます。「くまもとサプライズ」の展開でございます。

まず、「くまモン」を県内各地で開催するイベント等に出場させまして、多くの県民の皆様方に「くまもとサプライズ」の普及・啓発を進めております。4月から10月までの期間で648カ所、PRの対象人数が124万人というふうになっております。

それから次の丸印、ロゴ及びキャラクターの使用でございますが、4月から10月末でございますと許可件数が1,190件ございま

す。月平均大体150件ペースで今まで進んでおったんですが、先ほどの「ゆるキャラグランプリ」以来、今、月300件の申請が上がってくるような状態になっております。申請から許可までの時間をできるだけ短縮できるように、一生懸命頑張っているところでございます。

それから、その下の方でございますが、「くまモン」の使用許可の商品売上高の数字でございますが、昨年12月から使用許可を始めてございますけれども、9月末現在までで10億2,600万の売り上げというふうなこととなっております。

それから、その下の丸でございます。先ほど部長の話がございましたが、県内外の方に熊本のよさを感じてもらうために、小山薫堂さんにより制作された「くまもとサプライズフィルム」の上映、貸し出しを行っております。イベントや各県人会での上映、それから同窓会・企業への貸し出し、銀座熊本館での常時上映等を行っております。

それと、先ほどの「ゆるキャラグランプリ」優勝を記念しまして、「YouTube」にも10月1日にアップしたところでございます。

最後でございます。「くまモン」が県内各地の風景、祭りとコラボしました「くまモンフォトアート展」を開催しております。くまもと森都心プラザ、現代美術館、新幹線各駅等で行ったところでございます。

以上でございます。

○坂本くまもとブランド推進課長 くまもとブランド推進課でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

私の方から、九州新幹線を活用した観光振興ということで、58ページをお開きいただきたいと思っております。

23年度の取り組みのところで、主なものを御説明させていただきます。

まず、ツイッターをやっておりまして、そのフォロワーが11月末現在で3万件を超えております。

続きまして、「くまもとの食を生かしたファン拡大」というところでございますけれども、9月30日に「くまモン」を営業部長ということで委嘱をさせていただきます。営業部長として、食品メーカー等を中心としまして今企業訪問を実施しております。そこに書いておりますUHA味覚糖、UCCホールディングス、江崎グリコ、サントリーホールディングス、ヒガシマル醤油、神戸屋、これはパン屋でございますけれども、それとカゴメ、それと日清食品ホールディングス、それと串かつ協議会というふうなところを企業訪問させていただいております。

その成果といたしまして、まず1点目でございますけれども、串かつ協議会ということで、大阪で串かつという一度漬けとかいうことで、二度漬けはしないでくださいというふうなことで有名かと思っておりますけれども、新世界、通天閣の周辺でございます。その辺のところ、そこに串かつ協議会というのがございます。熊本県の食材を串かつに使っていただいて、そこで食を楽しんでいただくような形のフェアを実施しております。

それとあわせまして、通天閣の中で、先ほど新幹線元年戦略推進室の方からもございましたけれども、「くまモンフォトアート展」、風景とか祭りと「くまモン」がコラボしたような写真等ございますけれども、そういうものを展示させていただくようなフェアを昨日まで開催をしたところでございます。

2点目でございますが、カゴメの方から「野菜生活100デコポンミックス」ということで、新パッケージの中に「くまモン」を活用させていただいて、これは実は昨年から販売をしております、販売予定額を今年度1.4倍ということで、大体目標額7億円を想定した形で販売をしたいということで、カゴメの

方は励んでおられます。これについては、社長と一緒に記者会見をさせていただいたというふうな形で、全国にも情報発信ができたのではないかなというふうに考えております。

UHA味覚糖につきましては、晩白柚ぷっちょを商品化したいということで、全国販売の決定がなされております。12月14日にUHA味覚糖の社長が知事の方を表敬訪問されまして、その際商品化の決定について記者発表をさせていただきたいというふうに考えております。

こういう形で、大企業を通して熊本の魅力ある食材を展開させていただきたいというふうに考えております。

地域展開といたしましては、今回特にやりましたのが、広島展開を重点的にやらせていただいております。マツダスタジアムにも看板をずっと掲示をしておりましたが、9月から10月にかけて前田選手——岱明町出身でございますけれども——のCMを広島で流させていただいております。それとあわせまして、路面電車に「くまモン」の広告等を各車両にも掲示をさせていただいております。フードフェスティバルとかカープファン感謝デー等についても、各物産展並びに「くまモン」等を登場させるような形で、広くアピールをしたところでございます。

11月の14日から16日につきましては、岡山の方に「くまモン」が出向きまして、さまざまな地域の方々と交流をしたところでございます。

次が、59ページのブランド推進事業でございますけれども、12月の8日の日に、奥田政行さんという方をお招きしてセミナーを実施しております。食を通じた地域づくりということで、「食の都庄内」を実現化させていらっしゃる方で、なかなか予約のとれないレストランのシェフとして有名な方でございます。すばらしいお話が聞けたのではないかなというふうに考えております。

以上でございます。

○宮尾観光課長 観光課でございます。お世話になります。

61ページをお願いいたします。

中ほどでございますが、現在、10月から12月にかけて、全国に向けて熊本・宮崎・鹿児島へのデスティネーションキャンペーンを展開中でございます。それに先駆けまして、キャンペーンサイトの開設ですとか、大阪「くいだおれ太郎」を活用したPRやプレスツアー等を実施させていただきました。

62ページをお願いいたします。

62ページから63ページの中ほどにかけて各種媒体のことを書いておりますけれども、情報発信が非常に重要でございますので、電波や紙面その他を使いまして、あらゆる媒体を活用して熊本の露出、PRに努めたところでございます。

63ページの中ほどでございますが、今回初めてデスティネーションキャンペーンのオープニングイベントというのを行いました。熊本城で行ったんですけれども、天候にも恵まれてまして、3日間で入場者が5万9,000人強ということで、たくさんのお客様方にお越しいただきました。

64ページをお願いいたします。

上段の方でございますが、オープニングイベントの一つとして、3県の太鼓連盟が中心となって、九州一円から150グループ太鼓の方たちが参加して、3,000人の和太鼓演奏を行いました。「東北に向けて元気を送ろう」というものでございますが、あわせてギネス記録にも挑戦いたしまして、2,778人ということでギネス記録を達成いたしました。

なお、この2,778という数値なのは、調査の方たちがたくさん間に入られまして、リズムが合わない人とか、あるいは太鼓をたたいていないんじゃないかと思われる人たちをずっと減点していくものですから、こういう数

値になったものでございます。

64ページの中ほどでございますが、「極上 gokujo 熊本キャンペーン」です。九州新幹線全線開業の効果を県下全域隅々まで波及させるために、デスティネーションキャンペーンにあわせて実施したものでございます。ハンドバックサイズのコンパクトなパンフレットですとか、モデルコースの提案などを行いまして、大阪等に置いたガイドブックは大変好評をいただくとともに、そこに書いておりますようなさまざまな媒体を使いまして、熊本の魅力をアピールさせていただきました。

65ページをお願いいたします。

南九州キャンペーンです。南九州3県のデスティネーションキャンペーンの効果をなるべく長くさせるため、これ普通は12月までなんですけれども、JR九州が中心となって、九州新幹線ですとか、各観光列車をデザインされた水戸岡鋭治さんのデザインのポスターなどを活用して、3月いっぱい、本年度いっぱい実施中でございます。

66ページをお願いいたします。

観光列車を活用した誘客です。熊本は「SL人吉」、「いさぶろう・しんぺい」、「九州横断特急」に加えまして、6月から「あそぼーい」、これは親子がターゲットでございませぬ、それから10月からの「A列車で行こう」、これは大人がターゲットでございませぬ、熊本は最もたくさんの観光列車が走るところとなっております。これら5つの観光列車を生かした関係誘客活動を展開いたしました。なお、「A列車で行こう」は、シークルーズと連絡いたして天草の方にも送客しております。

⑥九州他県と連携した観光客誘致活動の推進でございます。

九州観光推進機構との連携は申すまでもございませぬが、南九州、あるいは横軸との連携も非常に大事なものでございまして積極的に行っております。デスティネーションキャ

ンペーンにあわせてまして情報発信のほか、67ページの二重丸のところにあるような、各社の旅行商品の造成の支援を行っております。

また、長崎・熊本・大分の横軸連携につきましては、3県どこでも乗り捨てができる「トヨタプリウスで走る 九州横断エコドライブの旅」を連携して実施させていただきました。

67ページ下の部分でございます。おもてなしの取り組みでございます。

68ページが一番上の行でございますが、おもてなしの応募につきましても、後半の部分42件の応募がございまして、27件を支援事業として支援させていただきました。

3) 直近の観光動向でございます。前回、8月までの調査結果を御報告させていただいておりますけれども、今回は10月まででございます。10月までにおきましても、海外からは依然厳しく76%までしか回復しておりませぬが、関西以西からがその表の中ほどでございますが152%、その他関東ですとか中部等が132%ということで、国内は109%の伸びでございます。トータルとして約3万1,000人、104%ということで増加になっております。

以上でございます。

○松田三郎委員長 執行部からの説明が終わりましたので、質疑に入ります。質疑はございませんか。

○小杉直委員 44ページ、佐藤課長、さっきの説明の中で、一番下段の県議会の意見書及び要望活動ということでこの3項目説明されたすな。その後、努めていきたいというふうな言葉だったわけですが、どうかな、これの間違いのない完成の見通しというか、今後の紆余曲折の中でまた多少懸念材料も想像できるわけですか。

○佐藤地域振興課長 地域振興課でございます。

今こういった要望活動、それから県議会の意見書等提出いただきました成果といいますか感触としては、国の事務方の方から引き続き整備はやっていくんだというふうなお答えもいただいているところでございますが、感触としてはいいというふうに思っております。ただ、最終的には国の予算でございますので、その状況をしっかり見ていながら、何か動きがあればまたさらに要望活動をやっていくというふうに考えているところでございます。繰り返しになりますが、感触的にはいいのではないかとこのように考えております。

○小杉直委員 感触ではちょっと弱いんだよね。ぜひこれは完成させにやいかぬわけです。国の予算といってもこれはPFI方式ですから、国の大きな予算は要らぬでしょう。個別に民主党の県出身の国会議員の先生方と会うたびにお願いをすると、大丈夫ですというふうな、非公式の場ではありますけれども、そういう意見をいただくわけです。

これはぜひ完成させぬといかぬですが、受注している民間の動きはどうですか、民間、業者側の動きは。

○佐藤地域振興課長 これはPFI事業でございますので、ことしは民間の方では基本設計の修正、それから実施設計、それからさらに文化財調査をやるということで、今その文化財調査に取りかかっておられるところでございます。それが来年の6月ぐらいまでかかると言っておりますので、それから来年実際の工事に入る。こういう状況でございます。

○小杉直委員 きょうは鎌田代表もお見えでございますが、民主党県連にも機会あるたびに、鎌田代表ここに委員でもおられますの

で、積極的に動いていただいて、これがまた心配するようなことがないようにしっかり頑張っていただくと同時に、逐一、必要なときには委員長を含めて関係議員たちにも説明をしていただくようお願いをしておきます。一応要望で結構です。

○松田三郎委員長 ほかにございませんでしょうか。

○鎌田聡委員 今に関連してよろしいですか。要望いただきましたので、県連も特に昨年度非常に予算が厳しい、凍結という状況でしたので、当時の小杉議長からもしっかりと言われていましたので、何とか再開で頑張ってきた経緯があるんですけども、震災の関係での予算ということもございまして、国会でもこういった2月5日に議論があって、自民党の国会議員さんから、この辺がどうなのかというふうな御指摘もいただいてから、また少し方針が揺らいできているような状況があって、今御意見いただきましたようにPFIですから、一気に予算がぼーんと出ていくような話ではございませんので、そういったことも含めて、理解を求めてB棟の予算きちりできるように努力はいたしております。

これは我が党だけじゃなくて、やっぱりそれぞれ自民党さんも含めて、ぜひ熊本は熊本の事情、状況も踏まえてこのような動きをやっているんだということを、県議会も含めて、執行部も含めて一体となって要望をかけていきたいと思っておりますし、そういった動きにぜひ皆さん一丸となって取り組んでいただきますように、改めてこちらも全力でこれは頑張りたいと思っておりますので、要望いたしておきます。

○小杉直委員 お願いしておきます。

○山本秀久委員 キャンペーンとして、「く

まモン」の問題で主催地は大変努力していただいておりますが、私がこの前ちょっと総務部長に言ったかな、商標の使用許可の問題、それに対して1日150件から今300件ということで大変な苦勞も多いと思いますけれども、何か1回商標のペースで申しあげたら、2カ月ぐらいかかりますと言われたと。そんな2カ月かかるなら要らぬと言うたら、早速電話がかかってきて、すぐにやりますと言ったというようなことを外部から聞いておるから、そういう点のないようにしとかぬと、本当にこういう問題があったから一応注意しておいた方がいいよと、それだけ件数が多くなって皆さん努力が報いられてきとるわけだから。

それともう一つは、3県の観光議員連盟というのがあるわけです。その中で、3県の知事が集まって一回観光の問題はやったらどうだということを提起してありますけど、そういう点が、ここの観光はどうなっていますか、熊本県は。

○松田三郎委員長 1点目の方は本坂室長です。

○本坂新幹線元年戦略推進室長 新幹線元年戦略推進室でございます。

委員の方からの御意見と私の受けとめ方は、こういうふうにたくさんあるんですけども、県の行政として公平に、公明正大にきちんとやれという御叱咤だというふうに受け取れます。精いっぱい、委員の意見を腹に据えまして、真面目に、一生懸命にやっていきたいというふうに考えております。

○村上寅美委員 ちょっとよかですか、今に関連で。

宮尾課長とそれから今に関連だけけど、南九州3県の議連で、ことしは宮崎でしたけど、その前の役員会が鹿児島であって、そして

我々が議連で推進して執行部と協議をするけど、本当の意味の3県、要するに熊本・鹿児島・宮崎、それから大分・熊本・長崎、その2つとも、部長の説明にあったように、メインで取り扱ってはいるけど、ばらばらなんだな。

だから、せっかく議連も執行部も、事務レベルで執行部を、それから我々議会は議連をつくって、会長から話があったようにつくった中で提案があったのは、議連のときは半年ぐらい前のスケジュールを調整して3県の知事に寄ってもらう、それが副知事になろうとあれは別にしても、基本的に3県の知事が寄るということを決めたんです。

ことしからと言ったから早速知事部局に話をしましたら、熊本県知事は出るということを書いてもらったけど、本体の宮崎県が、ことしは知事のあいさつだけでスケジュールがなかなかとれないと、そういう問題があると思うんですよ、3県の知事だから。しかし、基本的には決めましたから、そして明けて来年は熊本なんです。だから鹿児島・宮崎の知事も基本的には来てくれる、副知事になるかは別にして。

そういったことであります中で、上海と台湾、これは台北と宜蘭という話ですけど、ここで3県で一応合同キャンペーンを張ったらどうかと、それぞれの県でやれば、単純に言えば3分の1で経費も終わるじゃないかと、だから力を合わせて、せっかく議連があるし執行部もやっているから、3県で上海と台湾で来春か夏かわからぬけどやろうということで、基本的に合意したんです。

合意しましたから、そのときは観光連盟も参加してくれているから、そういう話になるとるから、宮尾課長のところでぜひひとつその辺の情報交換、それから基本的にそうだけど自主的にやるということになって、実現できるかできないかという問題は幾つもクリアしなきゃいかぬ問題があると思いますから、

その辺をひとつ強く要望をしておきたいと思
います。よろしくお願ひしたいと思ひます。

それからもう1点、交通のキャンペーン…
…

○松田三郎委員長 ちょっと待ってください
。あわせて、今の関係で最初答弁をちょっ
と。

○山本秀久委員 今村上委員が詳しく説明し
たけども、その点で、あなたたちの方にそう
いう3県の知事の出席の問題というのは通じ
ているかどうかを聞きたかったわけだ。

○宮尾観光課長 3県の連携につきまして
は、今回のデスティネーションキャンペーン
でも3県知事が集まりまして、連携をさらに
強くしようというような意思の確認がされ
たところでございます。

また、先日の宮崎でも、知事はもちろん集
まってはいないんですが、3県の局長が会議
の後集まりまして、先ほどお話がありました
台湾等の合同キャンペーンについても今後連
携していきましようということで、意見交換
をさせていただいたところでございます。引
き続きやってみます。

○松田三郎委員長 先ほどおっしゃったよう
に、村上委員の御発言にありましたように、
私も役員会に出ておりまして、当日皆さん集
まるときはもちろんけども、役員会の時点
で執行部の観光関係の方にも同席いただい
ておくならば、事務方の方に、議員連盟だ
けで、こっちはこっちで執行部でやって、有
機的に連携した方がより効果があるだろう
という意味で、いずれまた、うちで言うならば、
村上会長から役員会の開催時に執行部の方
の御出席を要請することもあろうかと思ひ
ますので、その点もつけ加えたいと思ひま
す。済みません。

○小杉直委員 関連してですが、この61ペー
ジの熊本・宮崎・鹿児島デスティネーション
キャンペーン、これは観光議員連盟が寄った
ときに、行政の協力関係はどうなっているか
というふうな意見も出るわけです。実際は、
今知事を含めた行政の連携したこういうふう
な大きなイベントを計画して実行されとるわ
けですな。それを観光議員連盟の我々が知ら
ぬ場合もあるんですね。今後はひとつ、せ
かく行政が頑張っておるわけですから、機
会を失わぬように、我々には説明をしてい
ただくように要望しておきます。

以上です。

○氷室雄一郎委員 交通政策課ですけども、
来年3月ダイヤ改正ということで問題にな
った修学旅行の座席の確保の件ですけども、
その辺はいろんな要望もされていると思
うんですが、一部報道もされておったん
ですけども、その見通しみたいなものは
どうなんですか。

○松田三郎委員長 資料は48ページぐ
らいですね。

○氷室雄一郎委員 資料は48ページ
です。

○中川交通政策課長 交通政策課でござ
います。

修学旅行につきましては、10月ぐ
らいでしたか、一度総務委員会の場でも御
指摘を受けまして、早速JR九州の方に
状況の確認と、それから今後の対応につ
いて申し入れをまづ口頭でいたしまして、
先ほど説明しましたように、きちんと
正式な要望活動をしたところ
です。

JR九州としましては、今の九州新幹
線の車両の指定席の数という物理的な問
題あるものの、どうしてもお客さんが
集中するような

ときには今後臨時列車等も念頭に調整していきたいということで、修学旅行につきましてもしっかりと対応していきたいということでコメントいただいておりますので、今後は今よりか確実によくなると見通しております。

以上でございます。

○氷室雄一郎委員 例え、旅行も大規模校なり小規模校もありますので、ある程度の量が必要になってくるわけです。だから、そういうものに対応ができるのかどうかということですが、その辺の話し合いはこれからだと思うんですけども、その辺はどうなんですか、見込みみたいなものは。

○中川交通政策課長 今委員御指摘ございましたように、物理的な車両の中の座席の数に比べて、一定の時期に修学旅行生の数が集中する場合、これは容易に想像ができることでございますが、これにつきましては、まず学校が旅行エージェントに依頼をしております。旅行エージェントとJR九州との間で、その枠をどうするかという調整をなさるんですけども、まず集中しているのを少し分散できないかという協議がありまして、それで学校側も日程等が大丈夫ということであれば、皆さん前後に振って乗れるとか、そういうことはございます。それから、どうしても調整できない場合には、先ほど御説明しましたように、臨時列車等で対応していきたいということでお答えいただいております。

以上でございます。

○松田三郎委員長 どうぞ。

○氷室雄一郎委員 学校としては、行事予定というのは大体集中しているわけでございますので、その辺の学校間の調整なり、またそういう学校の計画を事前に早目にしなければほとんどが難しい問題でございますので、そ

の辺は教育現場のなるべく効果のあるようなところについても、行政としての役割も果たしていただければと思っておりますので、これから3月の改正に向けての部分でございますので、重要な部分でございますので、調整なりまた学校に対する説明等もしっかり行っていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

○松田三郎委員長 ほかに。

○早田順一委員 氷室委員の質問に関連して、今の新幹線に関してのことなんですけど、飛行機を利用した場合、今県立も私学もそうですけど、海外に行ったりとかはちょっと熊本空港の利用というのは難しいと思っておりますけども、そのほかの県内の学校で、例えば福岡を利用してどこかに行っているところがあるんじゃないかなというふうに思っております。極力熊本空港を使って行っていただきたいような働きかけというのをぜひしていただきたいと思ひます。

そうでないと、料金的な問題で親の負担も結構あるのかもしれないんですけど、そういった意味で、福岡空港を利用しているところがちょっと多いのかなという気がしておりますので、そういった点を担当の方から教育委員会の方にも、極力県内の飛行場を利用してくれということでぜひ言っていただきたいと思ひます。

○中川交通政策課長 修学旅行の特に航空線を利用したお話でございました。委員御指摘のとおり、特に国際線につきましては現在週3便のソウル線しかないという状況でございますので、海外への修学旅行に皆さんいらっしゃる場合、福岡を利用という実態確かにございます。

私ども、できるだけ阿蘇くまもと空港の利用ということで、実は国際線の振興協議会と

いう空港の利用促進の組織をつくっております。その中でも特に修学旅行を中心とした教育旅行を優遇しようということで、ある程度生徒さんの負担に対してもインセンティブ助成金という制度も用意しております。

そういうこともございまして、一昨年県立高校で初めて2校ソウルの方へ実現しかかりました。日にちまで決まったところでございますが、残念ながら延坪島の砲撃でそれが中止になった経緯がございますが、今確実に阿蘇くまもと空港を利用して行ってみようかという動きが出てまいっております。

先ほどの台湾線でも、大津高校が約350人のツアー、阿蘇くまもと空港利用の御説明いたしましたけれども、これに続く県立高校、私立高校の国際線等の修学旅行は確実に続いていくものと思っております。私の方も働きかけていくつもりでございます。

以上でございます。

○早田順一委員 私が言っているのは、国際線だけじゃなくて国内線も、例えば福岡から東京に行ってどこ行ったりとか、福岡から行っているのが見受けられるから、熊本を利用して、国内においての移動も、便数が悪いのか値段の問題かわかりませんが、その辺も働きかけをお願いしておきます。

○松田三郎委員長 関連ですね。

○岩中伸司委員 新幹線関係で博多ー熊本間が対前年度に、前年度は「リレーつばめ」ですけれども、「有明」も含めてですが、今月も149%ということですが、これは増加した分は新たな集客という理解をされていますか。

○中川交通政策課長 私どもは、増加分につきましては、新たなパイがふえたというふう

に今この時点では見ております、この数字につ

きましてはですね。

○岩中伸司委員 パイがふえたということであれば、例えばこれまで高速バスを使っていたりいろんな交通のルートがあるんですけども、そういうことからの新幹線への乗りかえというよりも、新たに集客が多くなったということに理解をするんですが、だとすれば、これが非常に心配なのは、新幹線ができたので一回乗ってみようというふうなことで一過性な形になる可能性もあるんですが、そうならないように観光あたりで一生懸命努力をされているというふうに思いますが、その辺の今後の取り組みというか、どう定着をさせていくということに。

○中川交通政策課長 まず、交通政策課の方からでございますが、委員御指摘のとおり、現在の量を、まず通ったから一度は乗ってみようということは確かにあろうかと思えます。私ども、少し時間がかかってはおりますけれども、新幹線の利用等、県内の各地から利用しやすいようにということで、アクセス方法の利便性の向上に取り組んでまいりたいと思えます。

そういうことによりまして、県内からの初のお客様、それから県外から来られたお客様が、円滑に県内を旅行されるような環境を整えていきたいと思っております。

以上でございます。

○岩中伸司委員 観光面は先ほどお話がされているので大体わかっています。努力をされている部分で今後取り組んでいこうということでしょうけれども、私は荒尾に住んでいるんですが、そういう点では玉名、大牟田の新幹線駅を利用というのは、県北の海岸沿いは非常に難しい地点なんです。

ですから、荒尾は新幹線じゃなくてJRの特急の増発要望等々もされているようですけ

れども、そんなことを返しながらも、私が心配するのは、一過性に終わっていく、今後継続をするような——149%になっているんですが、これがずっと続くのかなというのを非常に心配していますので、これからの推移を見ていきたいと思っています。

もう一つ、国内の空港の取り組みで、34ページか、空港ライナーの試験運行がなされていて、これの今報告を受けたんですけども、これでいくと1日47便運行されているので、これは空で走ること結構あるんじゃないか。例えば、10月99人は、考えてみれば、1便にすれば非常に少なくなるし、11月も2回2人かなと。これは現行無料ですけども、これは試験運転ですので、今後は有料ということも考えられているんですか。

○中川交通政策課長 交通政策課でございます。

まず、利用状況でございます。47便、今回の実験につきましては、空港から肥後大津駅までのあのライン、新しい人の流れをつくりたいということでございまして、豊肥線のダイヤとあと空港の離発着にかなり配慮して、1日47往復やっております。便当たり平均しますと確かに人数の張りつきが悪いようでございますが、今2カ月を見ても、時間帯によりまして1便当たり10人以上という便、7～8人という便もかなりある時間見えております。1便当たり1.何人とかいう時間帯も見えております。これは今後また長くやっていく中で、今度はダイヤの効率性というのを見ていきたいと思っています。

それから、現在無料で走らせていることについての将来性についてお問い合わせがございました。私どもはまず、とにかく一度使っていただいて、意外と便利なんだということを実感していただきたいということで、PRも兼ねて無料というのをやらせてもらっています。利用者数の推移が今120近くまで伸び

ています。これがもう少し伸びるまで精いっぱい頑張りたいと思います。

将来的にずっと、未来永劫無料かと問われますと、これはやはり財源の問題でございますので、どこかの時点で有料化というのは考えていきたいと思っています。まだ今のところは、利用状況それからアンケート等もしっかりやらせてもらって、定着するような取り組みということをやりたいと思っております。

以上です。

○岩中伸司委員 わかりました。その利用状況の中の利用者は豊肥線沿線が中心、新幹線乗りかえとか、こういうケースはあるんですか。

○中川交通政策課長 今まだしっかりとしたアンケートにはなってございません。ただ聞き取りの中で聞いている感じでは、行き先で、それから新幹線とかいうところまで、済みません、そこまではとらえておりませんが、まず県外からのお客さんが約半分ぐらいはいらっしゃる感じです。ですから、空港からそのままあるいは帰りも使われるということは、県外の利用の方が半分ぐらいいらっしゃいます。

大津それから沿線のお客さんが30%強ぐらいてございまして、残りが鹿児島本線のさらに先の沿線の利用、まだ少ないデータでございますけれども、聞き取りの中ではそういう感じがわかっておりますので、これから引き続きまたしっかりデータをとっていききたいと思います。

以上でございます。

○岩中伸司委員 意外で、沿線が圧倒的かなと思ったんですが、県外が半分近くあるということであれば、沿線30%ぐらいですので、それなりの効果も出ているというふうな見方ですね。ぜひこの辺は、未来永劫無料という

のは、これはそういうわけにもいかぬというふうに思いますので、一つはやっぱり車で来る人の関係が、要は駐車場問題がたくさん問題としてありますので、一番いいのはやっぱり公共交通機関だと、私もそういう認識はしているんですけども、ここら辺についてはどうも安閑としてはおれないような、無料だから来るというふうなことがあるという部分が多いと思いますので、そこら辺もじっくり、もう少し詳しいアンケートをとっていただきたい思います。

それは要望です。

○松田三郎委員長 ほかに。

○堤泰弘委員 57ページ、「阿蘇や天草をはじめとする県内各地域の優れた自然、歴史、文化」といろいろ書いてございます。最近お聞きになったと思うんですけど、阿蘇のロープウエーが廃止、それから草千里のスキー場廃止、それから時間がたちますけども阿蘇観光ホテル、これもおしまい。自然・歴史・文化を全然大事にしておられないような気がいたします。

それから噴火口の規制、何かP P Mですね。硫黄が出てくると観光客は、外国から来た人も国内から来た人もリピート客も同じように立ち入りを禁止する。一番遠いところからはヨーロッパ、アメリカ、近いところは韓国、台湾、中国、国外のお客さんが阿蘇の噴火口を見たいと、1時間前までは観光バスのガイドさんが御案内をされておった、そしてその後急にP P Mが上がったので噴火口には行けないと。

なぜかと質問をしますと、過去何百年の歴史の中で、お気の毒にお亡くなりになった人が2名か3名おられる、恐らく数千万人の観光客の中で大変お気の毒に2～3名の方がお亡くなりになったと。原因を聞いてみますとわからない、ぜんそく発作を持った方じゃな

いだろうかと。それから二日酔いの泥酔状態で、仲間の人が無理に、本人は嫌だと言ったけどもかついで噴火口まで連れて行って、下る途中でお亡くなりになった佐賀県の方がお一人おいでになると。これは硫黄じゃなくて心臓がとまったんだらうかと、それは噴火口の観光業者の方から私直接聞きました。

それから、噴火口の周りの観光業者の方ですね、戦前戦中、戦後は特に毎日、よほどのことがない限り噴火口の周辺で商売をされております。一説によりますと、雲の動き、風の吹き方、また火口底の水の色で、阿蘇の噴火口のいろんなことがおわかりになる人がかなりおる、60年阿蘇の噴火口におるよと。

この方たちを、見かけが悪い、あの人たちが噴火口にたむろしておれば見かけが悪いと、だから営業権はあの方たちの1代限り、すなわち後継者には営業権を認めないと、そういうことも聞いております。

この文章と、「自然、歴史、文化等、熊本が持つ魅力を」云々と書いてありますけども、なかなか私にはそういうふうに受け取れません。特に、阿蘇山上のロープウエー、それから草千里のスキー場、これはもし今から新たに建設しようと思えば、それこそ一番に環境省、それから国土交通省もいろいろ言うてくるでしょう。恐らく許可が厳しい。もうつくれない。せつかくあるのをなくして、それに対して観光立県を宣言している熊本県は、今までいかなる手立てをされてきたのか、これは課長さんじゃちょっとあれだけん部長さんにお尋ねします。環境省も国土交通省も含めてひとつお答えを。

○松田三郎委員長 ちょっと待ってください。質問が長かったので整理しますけども、コメントをもう一回、どこに触れてもらいますか。

○堤泰弘委員 まず、草千里のスキー場、そ

れからロープウエー、それから天皇陛下もお泊まりになった阿蘇観光ホテル、これが全部廃止ですね。これは自然・歴史・文化があったと私は思います、この3つをまず。その次に、諸外国からの観光客が楽しみにきたのに、1時間30分前に突如として噴火口への立ち入りを規制すると、これが2番目。まず2つ答えてください。

○坂本企画振興部長 直接担当しておらぬものですから、阿蘇ロープウエーの廃止、草千里スキー場の廃止、それぞれの事業主体なり規制の関係について責任を持ってお答えすることができなくて、申しわけないんですが、阿蘇の観光に来た方々が、噴火口を十分楽しんでいただくためにどういうふうなことをしていったらいいのかと。

今阿蘇市が提案しています、山の中にいわゆる全天候型で噴火口が見えるような施設をつくるという話がございますけども、片やそういうものを設けることが自然のある意味で破壊になるんじゃないか、あるいは費用対効果はどうだと、いろんな議論はあるかと思いますが、いずれにせよ世界の方々が阿蘇にあこがれて噴火口を見たいと思ってくる、それにもかかわらず噴火口見られないで帰っていく状況があるということは、まさに十分活用できていないということだと思いますので、地元市町ともしっかりと議論しながら最大限活用するように努めてしていきたいと思えます。

○堤泰弘委員 お願いします。

○松田三郎委員長 何かありますか。堤委員がおっしゃったこの57ページの文章は、もちろん県の担当課でつくられた。ただ、質問の中身に関してはなかなかあれなんです、県がこうします、ああしますとか、その状況を把握して、ちょっとわからない部分も含めて

でしょうけれども、その……

○堤泰弘委員 ちょっと済みません。それで、今委員長がおっしゃったように、県がどうします、こうしますじゃなかなかできないんです、国の規制が入ると。しかし、観光客の方はそれは関係ないわけです。噴火口が見たい、ロープウエーにも乗りたいと。そしてスキー場は、五ヶ瀬にできてこっちはお客が減ったからやめたという単純な理由ですね。五ヶ瀬に負けないような、宮崎県に負けないようなことはなぜできなかったかと、そういうこともお聞きしたいわけです。でも、さっきの答えでいいですから、後は頑張ってください。

○松田三郎委員長 ほかに。

○岩中伸司委員 新幹線関係にこだわって申しわけない。さっき乗車率が非常に多くなって、149%博多ー熊本間だったんですが、これは大阪ー熊本間というのは何か資料がありますか。

○中川交通政策課長 前回の委員会の別添資料で説明させていただいている中で、旅客流動推定というのがございました。新幹線開業前と開業後の大阪というよりも関西地方なんですけれども、関西地方と熊本県の間でJRの利用は23%の増でございます。JRと航空機等も含めた全体の数字につきましても約30%の増でございます、熊本と関西地方から。

以上でございます。

○岩中伸司委員 そうすると、航空機は、この資料でいけば、対前年度でいけばマイナスになっていますね、15ページで示されていますね、大阪線。神戸だけは多くなっているんですが、大阪線ー伊丹線は7万2,000人ぐ

らい減っているんですね。それと利用率も、次の16ページのうち大阪線でいけば、対前年比も8月だけは105%になっていますが、かなり下回っているということで、実際空港の利用もふやさないかぬけれども、この新幹線で空港からかなり流れてきているなという感触を持っているんですが、そういうことは全く考えられていませんか。

○中川交通政策課長 ただいまの16ページに、空の方の大阪線の資料が表の中にございます。今委員御指摘のこれは月別の数字でございますが、利用率と前年比でございますけれども、利用者数につきましては、8月につきましては105.9ということで伸びておりますが、9月、10月、97、89.7でございます。資料に記載しておらず手元の数字でございますが、11月については91%を超えている状況でございます。

大阪線につきましては、新幹線の開業と同じ時期に、JALの方がちょうど本社の方の全体の見直しの中で機材の小型化等もやっております。利用者につきましては、この97あるいは90以上という数字をどうとらえるかということでございますが、私どもから見ましては、機材の小型化等とかなされる中では、航空機の利用が特に減っているということではございません。ただおっしゃられるように、一部新幹線にシフトしているのは間違いないと思います。

以上でございます。

○村上寅美委員 17ページの航空機の利用、これは南方と台北と非常に努力をしているということですけど、南方については可能性として実現可能だということで、かなり水面下で進んでいるというような情報も得ているけど、その辺どうなのか。

それから、台北線は今まで質問もしたけど、やっぱり足がないから福岡に行ったり関

空に行ったりせざるを得ないと、基本的な問題だと思うんだ。だから、ぜひ長崎や宮崎、鹿児島に負けないというよりも、足が出ないことにはどうしようもないということはどうなんですか。これについて……。

○中川交通政策課長 まず、南方航空でございます。今ちょうどまさに相手の会社とかなり詰めた議論をしております、今後の感触としましては、私どもとしましては、割と早い時期に外に向けて前向きな発表ができるかと思っております。

ただ、今この時点で、時期がどうかとか、そういうのはまだ出さずにいてくれというのが先方からの話でございますので、この場では、申しわけございません、南方航空の方は控えさせていただきます。

○村上寅美委員 局長、ということは、台北とはかなりの温度差があるということですか、実現に対して。

○小林交通政策・情報局長 台湾については、今回大津高校の300人以上の修学旅行が、中華航空のジャンボ機をチャーターしてほぼフル満載していったと、これが台湾の航空会社にとっては非常に大きなインパクトがあったと聞いております。今まではまとまった誘致活動というのはしてなかったんですけども、これをきっかけに一歩一歩台湾についても進めていきたいと思っておりますし、私自身近々台湾を訪問して、航空会社と意見交換を開始したいというふうに考えております。

○村上寅美委員 南方の方はまだ時期的にはというような話であるけど、例えば年内無理はわかるけど、来春とか来年というか、ぼかしたところでもいいんだけど、実現可能だというふうに見ておっついでいいの、局長。

○小林交通政策・情報局長 先ほど交通政策課長がお答えしましたけども、かなり最終局面に近いところまでは来ているだろうというふうには考えておりますが、最終的なところの御報告まで、まだ南方航空の本社の最終決裁が得られていないというのが現実なところでございまして、あと一步というふうには考えております。

○村上寅美委員 そうですか。ぜひ実現してください。

それからもう一点は、熊本駅周辺43ページ。この文言を見れば、「熊本駅西地区において土地の区画を整理して密集家屋や狭隘道路を解消し、緑豊かな公園等を整備する」と書いてあるけど、この区画整理というのは熊本市の事業でしょう。違うの。

○内田都市計画課長 熊本市施行の都市区画整理事業でございます。

○村上寅美委員 私たちは、変な形で完成したというような位置づけをしていたけど、これ見れば、これから区画を整理すると言うけど、前の人家がばらばらになっておるな、保育園があったりなんがあったりで、全国に笑われていると言ってもおかしくないと思うよ。そこをするの。これはどういう意味ですか。

○内田都市計画課長 今まで家がいっぱい密集しておりまして、きちっとした区画道路も入ってなかったし公園もできておりませんでした。そこをきちっとした形で、道路を入れたり区画の整備をやっていくと、きちっとした町並みが新たにできるという意味でございます。

○村上寅美委員 できるということは、今飛

び地で個人の家があるでしょうが、あれも整理するの。

○内田都市計画課長 個人の持っていた土地のところにもまた帰ってこられるということになります。個人の方々が、今幾つか家を建てておりますが、まだ戻ってきておらないところもございまして。区画整理事業がまだ全部完成しておりませんので、完成後はそれぞれの宅地におきまして建物が、個人さんなり企業なりの建物が建っていくだろうというふうに見込んでおります。

○村上寅美委員 今建っているやつでみっともないという話が大方なんですよ。区画整理の中で飛び地みたいに、ここは土地区画整理事業だから地権者がもとに帰るという原則はわかるけど、だから今後帰ってこられることは整理したところに帰ってこられると思うけど、今保育園があったり、不動産屋があったり、民家があったりして今はばらばらだということに対してはさわらないの、さわるの。

○内田都市計画課長 個人さんの考え方で家を建てていかれますので、私どもが特にどうこうということはございません。

○村上寅美委員 区画を整理してという意味があれたいね。これはもうあきらめなければいかぬかなと思ったけど、こういう文面になつとるもんだから、せっかく建てた個人の家も、どこかに1カ所に集中してしまうのかなというふうに僕は勘違いしたわけ。これはさわらない、今新築しているやつはさわらないのか。基本的に。

○内田都市計画課長 新築された家につきましてはさわらないということです。

○村上寅美委員 わかりました。

○松田三郎委員長 よございますか。ほかに。

○小杉直委員 部長に1点と、あとは県と県警にお尋ねですが、先ほど部長に、提言というか検討してもらいたいと、営業部長です、「くまモン」の。おとといも自衛隊の第8師団に「くまモン」が来て一生懸命踊りよったのですが、とても踊りが上手。子供さんはあれは生きとっと思うとるですな。我々大人は中で熱中症を起こしはせぬだろうかなと心配するぐらい、一生懸命頑張っておられるわけですが、部局は二言目には「くまモン」「くまモン」というふうに非常に評価して頼りにしとるわけですが、おたくが説明した、この秋以降円高の影響もあって、韓国からのインバウンドが伸び悩んでおりますということですが、こういうところに「くまモン」の活用はできないかということ提言というか検討していただきたい、これは要望です。

それから、今度は質問ですが、いよいよ来年2月に熊本城マラソンがあります。それで、地域振興課とか交通規制課とか、あるいは交通政策課、全部関連しますので、県から答えを1本と、県警から1本いただきたいわけですが、相当の応募者があって締め切った後は間に合わないという大人気ですが、これに対して、熊本城マラソンに県の方は協力支援、どういうふうに考えておられるか。

県警の方は、交通渋滞を含めたところの何か課題、それをクリアするような方策そして協力、そういうものを簡単にどなたか。

○坂本企画振興部長 熊本城マラソンにつきましては、私自身が実行委員の一員に入っております、企画課長が幹事会に入りまして、最初の構想段階から実は議論をさせていただいております。

と申しますのは、やはり熊本県下全域にア

ピールできる大きなイベントですので、質の高いイベントにしたいということ。それから、来た方が——県外からもかなり、2割ぐらいの方は県外だと聞いておりますので、この方々に熊本市の何か物産とか観光旅行だけじゃなく、県下でできるPRをしたいという観点で私ども参画をさせていただいております。

それに加えまして、いわゆる財政的な面につきましても、これは夢チャレンジ推進事業のスキームを活用しまして、いわゆる財政支援ほどではございませんけれども、熊本市の取り組みの中で、県下全域の波及効果があるような大きなイベントの要素というものに着目し、他の市町村同様に支援するといったような形で、二人三脚で取り組んでおります。

先ほどおっしゃられました参加する方へのエントリーの問題につきまして、私ども正直申し上げて、あのやり方でよかったのかということもありましたが、ことしは駆け込みで第1回ということであのやり方になりました。来年以降のエントリーの仕方も、また一緒になって実行委員会のプロセスで議論していきたいと思っております。

○高野交通規制課長 交通規制課の高野でございます。

熊本城マラソンに関しての取り組みですが、現在、交通部長以下66名体制で県の方で対策室を設置して、いろんな主催者側との協議を進めております。

先ほど御指摘のように、一番問題なのは交通渋滞、これまでにない大きな大会でございますので、交通渋滞が非常に危惧されます。そこで、迂回路対策、総量抑制、あらゆる広報手段と警察官を適正に効率的に運用して、交通渋滞ができるだけ発生しないように、またコース沿線、コース内に分断されます住民の方への影響が少なくなるように、現在検討を進めているところでございます。

以上です。

○小杉直委員 いろいろ説明を受けて安心しましたが、県の方も県警の方もしっかり応援協力体制をよろしく願いしておきます。

○岩中伸司委員 関連でいいですか。

○松田三郎委員長 ちょっと待ってください。今その他に入っておりますので、まず、先ほどの説明に関しての質疑は、一たんここで終了をさせていただきたいと思えます。

次に、議題（2）閉会中の継続審査についてお諮りいたします。

本委員会に付託の調査事件につきまして、審議未了のため次期定例会まで本委員会を存続して審査する旨、議長に申し出ることとしてよろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○松田三郎委員長 異議なしと認めます。それでは、そのようにいたします。

その他に入ります。

○岩中伸司委員 今のに関連ですけれども、部長の今のお話だと、かなり人気があって、3日間で満杯になったそうですね。中身は県外から2割ぐらいということですが、私はいろんな人の話を聞けば、第1回目だからこれは仕方がないけれども、先着順という形にすれば、県外からの参加はまだ知られていないということもあって、なるべく私は県外から多くの人を取り込んでいくという……。

宮崎できのう25回の青島太平洋マラソン大会があったんですけれども、これは25回目ですけども、最初は600人ちょっとからスタートして、今回は1万3,800人集まったということで、47都道府県、韓国から43人、そんな大会になって、知事のお話でも飛躍的に伸びてきていると。

たまたまマラソンブームに乗ったというこ

ともあるかもしれないけれども、このマラソンのコースは、どちらかというと直線で走りやすいところだったんですが、最近ちょっとまたごちゃごちゃになって、熊本の場合はコースとりが警察の先ほどの説明で渋滞関係もあって、それと名所を見せたいということもあるかもしれないけれども、非常にカーブが多くなっているとか、走るランナーにとっての苦情はたくさん来ています。

ですから、これをもっと発展させて熊本をPRするというのであれば、私は、先着順というのはやめて抽選でやるというぐらいの、数はやっぱり制限しなきゃいかぬと思いますので、そういうことをぜひ強く要望をしておきたいと思いますが、よろしく願います。

○松田三郎委員長 ほかに。

○高野洋介委員 関連でいいですか。マラソンの話をされましたけども、いろいろ県内には天草のパールラインマラソンだとか、人吉のマラソンだとか、歴史があるような大会も多くあるんですけれども、そういったところも熊本城マラソン同様、同じ力の入れ方を県はされるんでしょうか。

○坂本企画振興部長 先ほど夢チャレンジの例を挙げさせていただきましたけれども、夢チャレンジ事業、例えば天草の海道博に対して同様のスキームで支援しております。熊本城マラソンにつきましても、今回立ち上げというふうなことの中で、県内各地への波及効果等をにらんだような取り組みをしていただくということに着目して、こういう言い方はあれですけども、1回限りということでやっておるつもりで、各市町村がやられているマラソン大会に全部実行委員会が入って、毎年財政支援でつき合っていくというやり方でマラソンを支援するということは、多

分県のリソースから考えて無理だと思いますので、ある意味、1回目の立ち上げの特例というふうに考えていただければと思います。

各地でやられているマラソン大会で、ことしこういうブラッシュアップをしたいんだという御提案がありましたら、それは夢チャレンジあるいは他のスキームを通じて同じようなエネルギーを投入して支援させていただく、この点は申し上げておきたいというふうに思います。

○高野洋介委員 わかりました。

○松田三郎委員長 ほかにありませんか。ほかになければ、本日の委員会はこれで閉会いたします。

午前11時25分閉会

熊本県議会委員会条例第29条の規定により
ここに署名する

高速交通及び新幹線活用対策特別委員会
委員長